

令和5年度 第3回学校運営協議会・学校関係者評価委員会 議事録

期日：令和6年2月29日（木）

10:00～11:50

場所：岡山東支援学校

ボランティアルーム

出席者：委員13名

石井委員、伊藤委員、五代儀委員、大野呂委員、小坂委員、杉野委員、瀧浪委員、人見委員、福田委員、本田委員、森脇委員、山本委員、原田委員

本校職員8名

白川事務部長、清岡副校長、實村教頭、吉田教頭、金子教頭、影山教頭、橋田教頭、永禮主幹教諭

1 開会

<あいさつ>

（学 校 長） 今年度はウイズコロナとして、これまで控えていた活動も再開しながら教育活動を行ってきた。地域からの御協力もいただき、できるところからやっている状況。ICT機器を活用した個別最適化された学習もすすめていきたい。

2 説明・協議 <学校関係者評価委員会>

学校自己評価について

（事 務 局） 本年度の学校自己評価について、資料を基に説明

<プレゼン資料を示しながら説明>

保護者の評価の説明。回収率が90%と上昇。（前年度80%）全ての項目について90%を超える高評価をいただいた。

その中で比較的評価の低い項目について、比較的評価の高い項目について、教職員・保護者に共通した項目について分析。また、教職員の業務の効率化や環境整備、保護者への情報発信の必要性について説明。

（委 員） 進路や福祉制度に関する情報提供の項目に関連して、障害基礎年金について倉敷まきび支援学校での取組が今日の山陽新聞で紹介されていた。本校でもこのような取組はあるか。

(B高教頭) 年金のことは保護者の方も関心が高い。教員の研修と併せて保護者の研修も行っている。全員の方に理解いただくことが課題。

(委員) 保護者の方は安心して学校に通わせることができていると思う。18歳成人になって、変わったことがよく分かっていない方もおられるのではないかと。保護者にも情報提供して欲しい。

(B高教頭) 成人年齢の引き下に伴って生じる様々なことについて消費者教育をはじめ計画的に学習している。生徒の理解が十分ではない面もあるが、教職員や保護者の研修も併せて行っていきたい。

(委員) 全ての項目で、90%以上の高評価というのは素晴らしい。地域の小学校として交流・共同学習ではお世話になっており今後も連携したい。

働き方改革の具体的な事例やICT機器の活用の実際について聞きたい。

(事務局) 働き方改革については、これまでも取り組みを進めており、現在は小さなことの積み重ねで無駄を削っている状況。ICT機器の活用については、全ての児童生徒が利用できているわけではなく、機器の取り扱いが難しい場合もある。

(委員) 本校生徒の交通手段として駅を利用してもらっている。ICT機器を利用した業務改善は企業も同じ。参考になることがある。

(委員) 先生方のご苦勞と保護者の方の協力がよく分かった。高評価が多い中、学校の施設・設備の項目がやや低いがこの点についてはどうか。関係機関との連携の「他機関」にはどのようなものがあるか。

(事務局) 本校は開校して30年近くが経過し、老朽化しているところもある。この項目は、具体的な部分・箇所が指摘しやすいためという理由も考えられる。予算の関わることなのですぐに対応することは難しい。

(学校長) 他機関との連携については、医療・福祉・労働・行政などと児童生徒のニーズに応じてどことつながるかを見極めて、個別に対応している。

3 説明・協議 <学校運営協議会>

(1) 本年度の特徴的な取組の説明

(副校長) <食育について>

給食甲子園の全国大会出場の説明。授業の部門と献立の部門の両方で優秀賞を獲得。大会会場と本校をリモートでつないで応援・視聴をしたことを報告。

(A高教頭) <ICTについて>

I C T機器を利用した学習について説明。発語や書字に代わる機能を利用した意思表示や学習のまとめの事例、リモートによる他校との共同学習の事例、調べ学習、動画による学習の振り返りの事例などを説明。

(B小教頭) <交流及び共同学習について>

各部門・学部での学校間交流の様子を説明。直接交流で一緒に活動したりプレゼント交換をしたりしたことを報告。

居住地校交流の実際について報告。交流先での温かい配慮で参加者のうれしい感想が届いている一方で抵抗感のある保護者の方もおり、意義を伝えつつ間接交流から始めることの必要性を報告。

(事務局)・地域と連携した教育活動をまとめた資料の紹介

・支援部の取り組みについて、次の点について紹介

校内支援と校外支援の件数、小中学校でのケース会の参加、高等学校のコーディネーターサポート、岡山市東区特別支援教育部会の講師について

・本校の働き方改革についての説明

文書作成業務の見直し、退庁時刻の再確認、時間外勤務の削減状況の報告を行った。スクラップチャレンジの取組の具体例を紹介。

(B高教頭) いじめ防止対策についての説明

年3回のアンケートに加えて、教育相談や日々の生徒の観察の結果、本年度のいじめ認知件数は0となっている。小さなトラブルからいじめに発展する場合もあるので、それを見逃さないように気をつけている。

(2) 次年度の学校経営について

(学 校 長) 令和6年度学校経営計画書について説明

今年度から大きな変更はないが、文言、重点事項について変更していること。また、グランドデザインと経営計画がかみ合うように修正を加えたこと。具体的な学校経営目標・計画について、資料を基に説明。

(委 員) 個々の児童生徒に対応した指導支援は大変だと思う。高等部卒業後の追跡はどうなっているか。

(事務局) 生徒の実態に合った進路先に進んでいる。卒業後3年間をめぐりとしてアフターフォローをしている。

- (委員) 先生方はたくさんの仕事をされていて、休む時間があるのか心配。キャパオーバーにならないように、スクラップすることも大事だと思う。
- (委員) 学校の細かい計画や実践に感心している。以前は地域住民と交流もしていた。何かできることがあれば協力したい。
- (委員) 学校自己評価の90%越えは立派。福祉の現場では、利用者ときちんと向き合うことが遅れているかもしれない。学校がセンター的機能を担っていることは大変ありがたい。家庭の機能と学校への通学手段の脆弱さがあると感じる事例が多い。虐待やいじめに関連して、自己肯定感や他者への尊敬などに関する授業は行われているか。
- (A 高教頭) 人権については、自分のことを知ることが一つ。何が好きで何が苦手で、困ったときにどうしたらよいかなどが分かることが大事。2つめは、周りの人のことを知ること、得意なこと苦手なこと困ったときの発信の仕方を知りそれを受け止めること。様々な場面で指導を行っている。
- (事務局) 通学手段の保障は難しい面もある。スクールバスは小中学部の児童生徒が利用することを前提としている。高等部生徒は、社会に出る前段階で、公共の交通機関の利用を視野に入れる時期だが、簡単にはいかない面がある。人権については教職員が改めて意識を高め、子どもたちを大切にできているか常に確認すること、児童生徒の自己理解を深めることが大事。
- (委員) 「ひがしっ子」を読ませてもらっている。公民館での児童生徒作品の展示やサークル活動の出前授業のようなことも協力できるのではないかと思う。
- (委員) 保護者の立場としては、学校に出かけていろいろな行事や活動に参加できるのはとてもうれしい。学校自己評価の項目によっては、保護者の方の意識の違いや感覚のズレなどで変わってくることもあると思う。
- (委員) 災害時に障害のある方、特に自閉症の方は避難所での生活がとても難しい状況がある。先の見通しが立たず苦しい思いをしている。災害時に学校ができることも整理しておく必要がある。

次年度の学校経営について、示された学校経営計画案に基づき、学校長に一任された。

4 閉会

<あいさつ>

- (学校長) 本校を応援してくださる皆様からいただいた貴重なご意見を基に、地域と共にある学校作りに努めて参りたい。